

(埼玉県)大宮駅周辺居住者対象 北海道新幹線新函館_(仮称)開業に関するアンケート調査結果

平成22年11月4日

北海道新幹線新函館開業対策推進機構

(1)調査期間／場所

平成22年9月15日(水)／埼玉県さいたま市

平成22年10月11日(月)、12日(火)／埼玉県上尾市

(2)調査方法

○大宮高島屋で開催された「第38回 秋の大北海道展」および

丸広百貨店上尾店で開催された「秋の北海道物産展」にて配布、各会場の回収ボックスにて回収

(3)回答者属性

①人数 257人

②属性

性別

	件数	構成比
男性	54	21.0%
女性	200	77.8%
無回答	3	1.2%

年齢

	件数	構成比
10代	4	1.6%
20代	11	4.3%
30代	25	9.7%
40代	34	13.2%
50代	47	18.3%
60代	68	26.5%
70代以上	56	21.7%
無回答	12	4.7%

【POINT】

百貨店の北海道物産展来場者を対象に調査を行ったことから、中高年女性の回答が多くなり、新幹線利用意向などの回答内容についても、ビジネス(出張)よりレジャー(旅行)を主体としたものになっていると推察されます。

【問1】新幹線の利用経験について教えてください。

n=257

	件数	構成比
一年以内に乗った	150	58.3 %
一年以上前に乗った	93	36.2 %
一度も乗ったことがない	11	4.3 %
無回答	3	1.2 %

【POINT】

「新幹線に一度も乗ったことがない」人の割合は、以前行った同じ項目の下記調査と比較して圧倒的に少なく、北関東在住者にとって新幹線があたりまえの存在になっていることが伺えます。
札幌圏在住者対象調査 24.6%(2007年9月北海道新幹線建設促進期成会調査)
函館圏在住者対象調査 9.4%(2008年4月北海道新幹線開業はこだて活性化協議会調査)

【問2】これまで北海道を訪れたことがありますか。

n=257

	件数	構成比
訪れたことはない(0回)	33	12.8 %
1回	48	18.7 %
2回	34	13.3 %
3回以上5回未満	63	24.5 %
5回以上	78	30.3 %
無回答	1	0.4 %

【問3】問2で1回以上北海道を訪れたことがあると答えた方にお聞きします。

北海道までの移動交通機関として、最も多く利用しているものは何ですか。

n=224

	件数	構成比
JR(新幹線・特急等)	41	18.3 %
飛行機	178	79.5 %
自家用車・フェリー	4	1.8 %
その他	1	0.4 %
無回答	0	0 %

【問4】これまで函館市を訪れたことはありますか。

n=257

	件数	構成比
訪れたことはない(0回)	63	24.5 %
1回	77	30.0 %
2回	48	18.7 %
3回以上5回未満	30	11.7 %
5回以上	32	12.4 %
無回答	7	2.7 %

【POINT】

調査対象が北海道に興味関心の高い物産展来場者であることから、北海道ないし函館への訪問比率は高めとなっていることが伺えます。北海道全体としては約87%の方が訪問経験がありながら、函館市への訪問経験は約72%であり、その差分からみても函館観光には潜在需要があると考えられ、北海道新幹線新函館開業に向けては函館への訪問意欲を高めるための誘客活動など積極展開する必要があります。

【問5】2015(平成27)年度に北海道新幹線が新函館まで開業した際は、函館に行ってみたいと思いますか。

n=257

	件数	構成比
函館を身近に感じられるようになるので、行ってみたい	221	86.0 %
新幹線が開業したからといって、函館を訪問しようとは思わない	9	3.5 %
どちらともいえない・わからない	21	8.2 %
無回答	6	2.3 %

【POINT】

北海道新幹線新函館開業が函館訪問の動機となりうると回答した方が86%と非常に高い結果となり、訪問意欲を新函館開業時まで持続してもらうためにも、開業に向けて今後も継続的な観光プロモーションが求められます。

【問6】北海道新幹線新函館開業後、函館・道南地区を訪れる際に最も多く利用されるとされる交通機関は何ですか。

n=257

(H21宇都宮調査)

	件数	構成比
新幹線(所要時間約3時間半)	200	77.9 %
飛行機(所要時間約4時間・羽田経由)	50	19.5 %
その他	2	0.7 %
無回答	5	1.9 %

構成比	差
81.1 %	▲ 3.2
15.6 %	3.9
1.6 %	▲ 0.9
1.8 %	0.1

【問7】北海道新幹線新函館開業後、札幌・道央地区を訪れる際に最も多く利用されるとされる交通機関は何ですか。

n=257

(H21宇都宮調査)

	件数	構成比
新幹線・特急(所要時間約6時間・新函館乗換)	141	54.9 %
飛行機(所要時間約5時間・羽田経由)	109	42.2 %
その他	3	1.2 %
無回答	4	1.5 %

構成比	差
68.4 %	▲ 13.5
27.4 %	14.8
2.1 %	▲ 0.9
2.0 %	▲ 0.5

【POINT】

2009年に宇都宮で行った同項目の調査と比較すると、北海道新幹線新函館開業時の利用交通手段として、函館・道南地区を目的地とした場合の新幹線利用意向は顕著な差異が見られないのに対し、札幌・道央地区を目的地とした場合の新幹線利用意向は、13.5ポイント減と、大幅な減少を示しています。これは飛行機利用する際に使用する羽田空港までの距離・アクセス・乗継ぎ回数・運賃等が影響しているものと考えられます。

とは言え、札幌・道央地区を目的地とした場合の新幹線利用意向も約55%にのぼり、問3の現状の利用交通手段がJR(新幹線・鉄道)と回答した人が約18%なことから、乗り継ぎ利便や料金などの経済性が優れていれば、札幌・道央地区においても新幹線乗り継ぎ利用客を充分に取り込める市場があるといえます。

【備考等】

今回の調査場所となった埼玉県は平成22年9月1日現在推計人口が719万人、新幹線の利用駅となるJR大宮駅は、1日あたりの利用者数が約50万人、東北新幹線・山形新幹線・秋田新幹線・上越新幹線・長野新幹線をはじめ、私鉄も含め13の路線が乗り入れる、埼玉県内最大規模のターミナル駅となっています。

当アンケート調査結果の詳細については、下記お問い合わせください。
 永澤、鈴木 TEL0138-23-1181 FAX23-1220
 本件担当：北海道新幹線新函館開業対策推進機構(函館商工会議所内)